

## ジャン・シベリウス (Jean Sibelius, 1865-1957)

フィンランドを代表する作曲家であり、彼の作品はフィンランドの国民的精神と自然を強く反映しています。シベリウスは主に交響曲や管弦楽曲で知られていますが、ピアノ曲も手がけています。彼の生涯、作品、思考、人間関係について詳しく見ていきます。

### 生涯

シベリウスは 1865 年、フィンランド南部のハメーンリンナで生まれました。幼少期に父親を亡くし、母親と叔父の支援のもとで音楽教育を受けました。彼は幼い頃から音楽に興味を持ち、ヴァイオリンを学び始めましたが、最終的には作曲家としての道を選びました。

シベリウスはヘルシンキ音楽院で学び、その後、ベルリンやウィーンなどで研鑽を積みました。彼の初期の作品には、民族的な要素や自然の描写が多く見られます。特に、フィンランドの民族叙事詩『カレワラ』から影響を受けた作品が多く、フィンランド独立運動の象徴となった「フィンランディア」(1899 年)は特に有名です。

彼の生涯を通じて、シベリウスは国民的作曲家として称賛され、国際的な名声も得ましたが、健康問題や作曲家としてのスランプに苦しむこともありました。シベリウスは 1957 年に死去し、フィンランドの国民的英雄として記憶されています。

### 作品

シベリウスの作品は、交響曲、管弦楽曲、室内楽、ピアノ曲、声楽曲、舞台音楽など、多岐にわたります。

#### 1. 交響曲

彼の交響曲は、フィンランドの自然や民族的要素を反映しており、7 つの交響曲が非常に評価されています。特に第 2 番や第 5 番は人気が高く、劇的な構成と豊かなオーケストレーションが特徴です。

#### 2. 交響詩

交響詩「フィンランディア」は、フィンランドの独立運動の象徴となり、フィンランド国内外で非常に有名です。他にも「エン・サガ」(1892年)や「トゥオネラの白鳥」(1895年)などの交響詩があります。

### 3. ピアノ曲

シベリウスは主にオーケストラ作品で知られていますが、ピアノ曲も作曲しています。その中で、組曲や短い小品が多い。これらのピアノ作品は、彼のオーケストラ作品ほど重厚ではないものの、彼の特有の抒情性とフィンランド的な美しさを感じられます。

#### 《10のバガテル Op.34》

1913年に作曲された10曲か

らなるピアノ小品集です。バガテルとは、軽快で短い小品のことを指しますが、シベリウスの《10のバガテル》はそれぞれに個性的で独特な表現を持ち、単なる軽音楽以上の深さと抒情性が込められています。

#### 1. Op.34-1 "Largamente"

この曲は重厚で荘厳な性格を持ち、力強い響きが特徴的です。タイトル通り、ゆっくりとしたテンポで、深い感情を表現しています。曲全体は簡潔で、和声の展開やリズムの扱いが巧みです。短いながらも、シベリウスの独自の響きを感じることができます。

#### 2. Op.34-2 "Vivace"

第2曲は軽やかで躍動感あふれる曲です。活発なテンポとリズムカルな動きが印象的で、バガテルという形式にふさわしい明るさを持っています。軽快なメロディが右手で展開され、左手は伴奏的な役割を果たし、全体的に親しみやすい曲となっています。

#### 3. Op.34-3 "Andantino"

穏やかで優雅な旋律が特徴のこの曲は、抒情的な性格を持ちます。旋律線は流れるように美しく、内省的な感情が込められています。リズムは安定しており、ゆったりとした雰囲気全体を支配しています。

#### 4. Op.34-4 "Allegretto"

第4曲は、軽快で踊るようなリズムが魅力的です。音楽は活発で快活な性格を持ち、躍動感があふれています。形式はシンプルでありながらも、シベリウス特有の響きが散りばめられています。

#### 5. Op.34-5 "Lento"

緩やかで感傷的な雰囲気を持つ曲です。静かで穏やかな旋律が、深い感情を表現しており、内向的な世界を描き出しています。シベリウスの特徴的な音楽的な深さが反映されており、短いながらも非常に心に響く作品です。

#### 6. Op.34-6 "Comodo"

「Comodo」は「心地よく」という意味で、この曲もそのタイトル通り、穏やかで心地よい響きを持っています。リズムやメロディは流れるようであり、全体的に親しみやすく、聞いていてリラックスできるような作品です。

#### 7. Op.34-7 "Allegro molto"

非常に速いテンポで、エネルギッシュな曲です。動きが激しく、左右の手の交互の動きやリズムカルなフレーズが交錯し、スリリングな展開を見せます。短い時間の中に、非常に凝縮されたドラマが描かれています。

#### 8. Op.34-8 "Andantino"

第3曲と同じく「Andantino」のタイトルが付けられていますが、こちらはさらに軽やかで明るい雰囲気を持っています。穏やかで落ち着いたテンポながら、旋律は軽快に進行し、非常に親しみやすい作品となっています。

#### 9. Op.34-9 "Presto"

「Presto」は非常に速いテンポで演奏される曲で、軽やかで技巧的な要素が強調されています。右手の速いパッセージが特徴的で、聴く者を引き込むような勢いを持っています。短くともスリリングで、シベリウスの卓越したリズム感を感じられる曲です。

## 10. Op.34-10 "Moderato"

最終曲は落ち着いたテンポで、フィナーレにふさわしい重厚さと抒情性を兼ね備えています。シベリウスの典型的な自然描写や深い感情が反映された音楽で、全体を締めくくりにふさわしい壮麗な作品です。

---

《10のバガテル Op.34》は、それぞれの曲が短くも個性的な表現を持ち、シベリウスの多彩な作曲技法と表現力を垣間見ることができる作品集です。技巧的な要素はあまり強調されていませんが、感情の深さや自然の描写、独特のフィンランド的な響きが特徴で、彼の他の作品と同様に詩的で象徴的な要素が込められています。

## 《5つのロマンティックな小品 Op.10》

彼の初期のピアノ作品の一つであり、ロマンティズムに満ちた個性豊かな小品集です。1893年に作曲され、ロマンティックな感情表現とフィンランドの自然に対する敬愛が感じられる作品となっています。それぞれの曲について詳しく解説します。

### 1. Op.10-1 "Kehätanssi" (環の踊り)

「Kehätanssi」はフィンランド語で「環の踊り」を意味します。この曲は、踊りのリズムと動きを強く感じさせる作品で、軽快で活気に満ちています。リズムカルな左手の伴奏に対して、右手が軽やかにメロディを奏で、踊りの雰囲気が楽しげに描かれています。舞踏的なエネルギーとリズムが特徴的で、簡潔な形式ながら、ロマンティックな魅力にあふれた曲です。

### 2. Op.10-2 "Valse" (ワルツ)

第2曲は、優雅で流れるようなワルツです。ロマンティックな雰囲気を持ちながらも、シベリウス特有の落ち着きと内向的な感情が漂います。右手のメロディはしっとりと美しく、左手の伴奏は穏やかで、軽やかながらも深みのある作品です。ワルツの形式を借りて、感情表現が豊かに展開されています。

### 3. Op.10-3 "Canzonetta" (カンツォネッタ)

「カンツォネッタ」は「小さな歌」という意味で、この曲もタイトル通り、歌のように美しい旋律が印象的です。穏やかで抒情的なメロディが中心にあり、全体的に簡潔でありながら、非常に優雅で感動的な作品です。特にメロディの滑らかな進行と和声の豊かさが、シベリウスの感情表現を際立たせています。

### 4. Op.10-4 "Rondoletto" (小さな Rond)

「 Rond 」は、軽やかな Rond 形式で書かれた曲です。右手が明るく活発な旋律を奏で、左手がそれを支える形で進行します。曲の構造は繰り返しが多く、親しみやすいテーマが何度も登場するため、非常に聴きやすい作品です。ロマンティックな要素は控えめで、むしろ軽快な遊び心が強調されています。

### 5. Op.10-5 "Largamente" (ゆっくりと)

最終曲は「Largamente」というタイトル通り、ゆっくりとしたテンポで荘重な雰囲気を持ちます。感情の深さが感じられる作品で、右手の広がりのある旋律と左手の重厚な和音が対照的に響きます。全体的に壮麗であり、シベリウスの初期作品の中でも特に情緒豊かな表現が詰まった曲です。

---

《5つのロマンティックな小品 Op.10》は、シベリウスの若々しいロマンティズムと、フィンランドの自然に対する彼の感情が見事に反映されたピアノ作品です。それぞれの曲は短くも多様な感情を表現し、シベリウスの初期ピアノ作品の中でも特に人気のある曲集となっています。

## 《樹の組曲 Op.75》("The Trees" Suite)

1914年

に作曲されたピアノ作品で、自然への深い愛情と感情を描写した作品です。それぞれの曲は異なる樹木をテーマにしており、シベリウスの独特な自然観が反映されています。この組曲は、彼のピアノ作品の中でも特に詩的な表現が豊かです。1曲ずつ詳しく見ていきましょう。

### 1. 《ピヒラヤの花咲くとき》 "När rönnen blommar"

「ピヒラヤ」は「ナナカマド」のことを指します。この曲はナナカマドが咲く時期の静かな美しさを描写しており、穏やかで抒情的なメロディが特徴的です。右手が静かにメロディを奏でる中、左手がそのメロディを支え、柔らかい和声を形成しています。優雅で自然な流れがあり、シベリウスの自然に対する敬愛が感じられる曲です。

### 2. 《孤独な松》 "Den ensamma furan"

「孤独な松」は、寂しさと荘厳さを併せ持つ作品です。松はフィンランドの風景によく見られる木で、この曲はその強靭さと孤独を象徴しています。低音の深い響きと、時折現れる高音の旋律が対比的に使われ、孤独感を増幅させています。全体的に重厚な雰囲気を持ち、内面的な感情を表現しています。

### 3. 《白樺》 "Björken"

「白樺」は、シベリウスが特に愛した木の一つです。この曲は、白樺の木の軽やかさと、風にそよぐ姿を描写しています。柔らかな和音と優雅な旋律が特徴で、全体的に穏やかで優しい雰囲気を持っています。自然の美しさが軽快に表現されており、まるで白樺の葉が風に揺れているかのような印象を与えます。

### 4. 《アスプの木》 "Aspen"

「アスプの木」(ポプラに似た木)は、速い動きと揺れる葉を思わせるような曲です。右手のメロディが絶え間なく動き、左手の伴奏がそれを支える構造になっています。全体的に急速なテンポで進み、エネルギーで躍動感があります。自然の力強さと動きを表現した楽章で、特にリズムの動きが特徴的です。

## 5. 《樅の木》 "Granen"

組曲の最終曲「樅の木」は、深い森の神秘的で荘厳な雰囲気を持っています。低音の豊かな響きと、静かに進行するメロディが組み合わさり、深い瞑想的な世界を描きます。この曲は、フィンランドの厳しい冬の景色を思い起こさせ、沈黙と内省の中にある美しさを見事に表現しています。全体的に厳粛で静かな終結を迎える曲です。

---

《樹の組曲 Op.75》は、シベリウスの自然への深い愛情とフィンランドの風景に対する敬意が込められた作品です。それぞれの曲は異なる樹木をテーマにしながらも、全体として一貫した自然の美しさと感情が感じられます。シンプルでありながら詩的な表現が豊かで、シベリウスの自然主義的な作風が最もよく表れている作品集の一つです。

## 4. 室内楽・声楽曲

シベリウスはまた、多くの室内楽曲や声楽曲も作曲しました。彼の合唱曲や歌曲には、フィンランドの自然や民族主義的なテーマが反映されています。

### 人間関係

シベリウスは、フィンランドの文化的指導者たちと密接な関係を持っていました。特に、詩人のユハン・リュウネベリやアレクシス・キヴィといった作家たちの影響を受けています。彼はまた、フィンランドの画家や建築家たちとも交流があり、フィンランドの芸術文化の発展に貢献しました。

また、シベリウスの家族も彼の人生に大きな影響を与えました。特に、妻アイノとの関係は深く、彼女はシベリウスの作品や精神的な支えとなりました。

### 思考・作曲スタイル

シベリウスの作曲スタイルは、フィンランドの自然や伝統に根ざしながらも、19世紀後半から20世紀初頭のヨーロッパ音楽の影響も受けています。彼はリヒルト・ワーグナーやヨハネス・ブラームスの影響を受けましたが、後にワーグナーの影響からは距離を置き、独自の音楽語法を確立しました。

彼の音楽は、調性感の崩壊を避けながらも、時には非常に前衛的な和声や構造を採用することがありました。特に後期の交響曲では、簡潔さや抽象性が増し、音楽の凝縮された表現が特徴となります。また、彼の音楽にはしばしば自然や神秘主義的な要素が含まれ、音楽を通じて自然と人間の内面的な世界を描き出そうとしました。

## 結論

ジャン・シベリウスは、フィンランドの民族的精神と自然を象徴する作曲家であり、彼の音楽はフィンランドの独立と文化的アイデンティティの確立に大きく貢献しました。彼のピアノ曲は少数ですが、その中に彼の抒情的で繊細な一面が反映されています。シベリウスの生涯を通じて、フィンランドの文化的な象徴として愛され続けており、彼の音楽は世界中で演奏されています。